

M 三重県独自の取り組み

地域と連携した取り組み

POINT

かけがえのない三重の豊かな環境を守り、育て、次世代に継承していくために県民の皆さんと協働しながら、新しいものを創造していきます。

4-1 県民の皆さんとのコミュニケーション

① ごみゼロフォーラム、地域ごみゼロ推進交流会等の開催 (環境森林部 ごみゼロ推進室) M

ごみゼロフォーラム

～ごみゼロ社会をめざす「もったいない」を生かした地域づくり～

県民・事業者・市町・NPO等民間団体を対象に「ごみゼロフォーラム」を平成23年1月29日(土)に県庁講堂で開催しました。

フォーラムでは、「ごみゼロ社会実現プラン」の改訂にさまざまなご意見をいただくパネルディスカッション、ごみゼロについて自分の問題として考え、取り組んでいただくきっかけとなるよう、「もったいない」をテーマとした^{かんた むらさき}神田 紫氏の講談、ごみ減量・環境活動を行っている民間・NPO団体等の取り組みの展示を行い、多くの方にご参加いただきました。



パネルディスカッション



講談師：神田 紫氏の講談

ごみゼロプラン推進委員会

住民・事業者・市町およびNPO等民間団体で構成する「ごみゼロプラン推進委員会」では、幅広い見地から評価・検証を行い、その結果をPDCAサイクルによるマネジメントにより、県のごみゼロ施策に反映させ、プランを効果的かつ着実に推進していくために開催しています。平成22年度は、「ごみゼロ社会実現プラン」の改訂もあり、6回開催しました。〔詳細は下記ホームページをご覧ください〕

三重の環境と森林→ごみゼロホームページ
<http://www.eco.pref.mie.lg.jp/gomizero/>



四日市地域交流会「ごみゼロウォーク・エコフェア in四日市大学」

地域ごみゼロ推進交流会

ごみ減量化に向けた地域での取り組みを促進するため、県民やNPO団体の皆さんを対象に、地域での取り組み事例の発表や意見交換など、参加者同士の情報交流、先進事例の研修、体験講座、大学との共催によるイベントの実施、有識者による講演会など県内8地域で開催しました。

② 連携で進める「キッズISO14000プログラム」(環境森林部 地球温暖化対策室)

平成17年6月に策定した「三重県環境保全活動・環境教育基本方針」を踏まえ、地域での環境教育を具体的に展開していくため、三重県では平成18年度から、小学校児童が家庭での省エネ活動やごみの削減に取り組むことで環境への意識を高める環境教育プログラム「キッズISO14000プログラム」を学校、企業、NPO、行政の連携により実施しています。

平成22年度は、県内企業11社から協力を得て、12市町23小学校で751人の児童がこのプログラムに取り組みました。



協力企業による子どもたちへの説明

4-2 三重大学の皆さんとの意見交換

平成23年10月12日、三重大学において、三重県の環境報告書に関する意見交換会を実施しました。

主な意見とそれに対するコメント

三重大学からの意見

三重県からの意見

葉っぱの表記は所々でわかりにくいところがある。



よりわかりやすくなるよう定義を明確にします。

一カ月約13%削減したことについては、いつからいつまでのことを表しているのかわかりにくい。



期間について明記します。

外部審査の結果について表記してはどうか。



結果について表記します。

推進組織の最高責任者は知事になると思うが、それについて表記してはどうか。



P28の組織図にて表記します。



三重大学の参加者

意見交換会参加者

三重大学(8人)

- 総括環境責任者(1人)
- 施設部(1人)
- 環境管理推進センター支援室(4人)
- 環境ISO学生委員会(2人)

三重県(5人)

- 総務部副部長(1人)
- 総務部人材政策室(2人)
- 環境森林部ごみゼロ推進室(1人)
- 環境森林部地球温暖化対策室(1人)



三重県の参加者

4-3 第三者コメント



世界最大級で千年に1回の確率と言われる、3月11日の東日本大震災によって、日本社会は甚大な影響を受け、私たち一人ひとりの生き方も大きく変わりました。特に、浜岡原子力発電所の休止に伴う、省エネ・節電は三重県民全体の身近なエネルギー問題への対策として全力で取り組みましたが、三重県庁内でも13%の消費電力削減の成果を上げています。このような時代だからこそ、時代を先取るエコオフィスのあり方を特集にて詳細に紹介していることに切実さが伝わります。

最高環境責任者である三重県知事のメッセージに、三重つくりの理念として「協創」を掲げていますが、三重県のみならず、日本が直面している諸問題への鍵として今後の展開に多いに期待できます。

本環境報告書は、環境負荷の低減、環境活動推進の仕組みや方針、環境活動の実績と評価、持続可能な社会づくりの取り組み、環境コミュニケーションなど多岐に渡る内容をコンパクトにまとめられていることに好感が持てます。また、ホームページおよび電子ブックでも公開されることから、誰でも、どこでも本環境報告書が読めるような工夫をこらしていることも高く評価できます。欲をいうならば、平成22年度の実績と評価において、丁寧な分析と解説があればもっと理解しやすい内容になると思います。

三重県と三重大学は、平成18年度から相互の環境報告書に対して第三者評価を行っています。環境報告書の質の向上に大変有意義な手法となっています。本環境報告書がピンチをチャンスに替える発想の転換や、県民主導の実践的環境活動に有効なツールとなることを願っています。

三重大学理事・副学長(環境・国際担当) 朴 惠淑